



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

10月号—No.377

2026.9.25

(毎月1回25日発行)

【生壁色(なまかべいろ)】灰色がかった黄土色。

乾いていない塗りたての土壁に由来する色名。ちょっとした色合いの違いで藤生壁、藍生壁などと呼ぶ。江戸時代に流行した「四十八茶百鼠」のひとつで、茶系・鼠系の色へのこだわりが左官にまで及び、もうちょっと藍色っぽくなどと話していたのを想像すると、微笑ましい気持ちになる。

●目次／contents

今月のニュース..... 2

令和8年度「市町村立美術館活性化事業」スタート

財団からのお知らせ..... 4

ステージラボ四日市セッション開催のお知らせ／令和9年度「地域創造セミナー」実施団体募集／「特別寄稿 ビューポイント view point」No.24 掲載について／「地域創造フェスティバル2026」シンポジウムのアーカイブ配信のお知らせ

今月の情報..... 5

地域通信／特集 アートプロジェクト・芸術祭

今月のレポート..... 12

横浜市 横浜みなとみらいホール こどもフェスタ「みなとみらい遊音地」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4093 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

●令和8年度「市町村立美術館活性化事業」

「没後30年 久保貞次郎とは何者だったのか？」展を開催

令和8年度 市町村立美術館 活性化事業 スタート



写真
1: アドバイザーの長瀧光子さんによるギャラリートーク(辰野美術館)
2: 学芸会議の様子(飛騨市美術館)
3: 展示作業の様子(辰野美術館)
4: 地域交流プログラム(飛騨市美術館)

●令和7・8年度市町村立美術館活性化事業第24回共同巡回展「栃木県真岡市所蔵 久保コレクション 没後30年 久保貞次郎とは何者だったのか？」
●辰野美術館(長野県辰野町)
5月30日～7月12日
●飛騨市美術館(岐阜県飛騨市)
7月18日～8月30日
●COCONOアートプレイス(福井県大野市)
10月10日～11月23日
●しもだて美術館(茨城県筑西市)
12月12日～2027年1月31日
[アドバイザー]長瀧光子(真岡市教育委員会文化課学芸員)、猪瀬葵(真岡市教育委員会文化課学芸員)
[コーディネーター]服部文孝

●市町村立美術館活性化事業に関する問い合わせ
総務部 高野・黒田
Tel. 03-5573-4056

「市町村立美術館活性化事業(市美活)」の24回目となる巡回展「栃木県真岡市所蔵 久保コレクション 没後30年 久保貞次郎とは何者だったのか？」が、全国を巡回中です。美術評論家・久保貞次郎が収集したコレクションの内、約1,460点の多彩な作品がゆかりの深い栃木県真岡市に寄贈されています。本展では、そのコレクションから、参加学芸員が選りすぐった73点の作品や資料をご紹介します。

市美活は、巡回展に参加したことのない学芸員の方も参加いただける研修制度の側面もある事業です。他館からの作品借用や、美術専門業者を活用しての展示輸送実務が未経験の学芸員も参加いただいていますので、今回は事業のサポート体制もご紹介したいと思います。

●市美活の事業枠組みと学芸員サポート体制について

まず市美活では、集まった参加館にて実行委員会をつくらせていただき、主体的に巡回展制作を行っていただきます。年に4～5回、各館を持ち回りにしての学芸会議を実施するほか、近

年ではオンライン会議も併用して巡回展の内容を詰めています。このような準備年度は1年間。限られた時間で、初めて会う学芸員同士で巡回展を制作するのはなかなか大変です。

こうした状況を踏まえて、アドバイザーとコーディネーターを学芸会議に派遣しています。アドバイザーは例年、貸出協力館の学芸員の方をお願いしています。作品のコンディションや著作権関係などコレクションにまつわる具体的な情報を提供いただきながら、作品選定においてアドバイスをいただくほか、展示作業にて展示方法についてご指導いただいています。参加学芸員からの質問に応じて、出品リストや図版の整理など、今回の久保展でもアドバイザーの方々にはさまざまなご協力をいただきました。

加えて、令和7年度からはコーディネーターの派遣も行っています。コーディネーターは市美活のOBであるベテラン学芸員で、実行委員会事務への助言・サポート、学芸員の経験値に合わせた学芸業務の指導など、多方面での確かなサポートをいただいています。実施主体となる実行委員会では、事務局館がリーダーシップを

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

取って話し合いを進め、実行委員会の事務処理も中心となって行いますが、都道府県を超えた実行委員会をつくって運営した経験のある学芸員はなかなかいないのが現実です。この事務局館としての進行もコーディネーターがアドバイスしてくれます。困ったときにどんなことにも相談に乗ってくれる、学芸員の皆様にとって心強い存在です。

●市美活の準備年度の様子

参加館募集の際、「パッケージ化された巡回展なのか」というお問い合わせを受けることがありますが、決してそうではありません。どんなテーマにするか、参加館同士の巡回展へのイメージのすり合わせを行うので、コミュニケーションが大切です。この過程を通して、学芸員同士の交流が深まり、日頃の学芸業務などについても相談できる仲間ができる方が多いようです。普段は一人で学芸業務を担当している方も多いため、大変刺激になるというお声もいただいています。

今回は、初めて巡回展を担当する学芸員の方が多かったということもあり、会議の中でなかなか意見が出ないこともありました。コーディネーターの的確な声掛けで、徐々にご自身たちの意見が出るようになり、最終的には、美術評論家、若手作家の支援者、コレクターなど多彩な顔をもつ「久保貞次郎」を知ってほしいという共通の思いに至ることができました。

展示構成を決めつつ、同時に展示輸送計画や図録・造作物の制作、著作権申請などを行っていくので大変ですが、アドバイザーとコーディネーターの手厚いサポートの下、開幕に向けて準備を進めていきました。まずは何から始めたらよいかわからないという場合も、コーディネーターが基礎的なところからアドバイスしつつ伴走してくれるので、参加した学芸員の皆様も安心してそれぞれ割り振られた担当業務を進められたようです。

最初の開催館では、展示作業に参加館が全員集まり、アドバイザーとコーディネーターにも指導やご意見をいただきながら、展示をつくり

上げます。普段体験することのない他館の学芸員と協力しながらの展示作業は勉強になることも多いようです。

そして、いよいよ5月30日に辰野美術館での総合開会式を迎えました。実行委員会の委員である各館の館長や、会場となる自治体の関係者などが集まり、にぎやかに展覧会がオープンとなりました。

●地域交流プログラム

地域に美術館の活動が還元されていくことを目的に、地域交流プログラムにも力を入れているのが特徴の一つです。

飛騨市美術館では、出品作品に蔵書票があることを踏まえ、金沢湯涌創作の森シルクスクリーン工房講師の笠嶋暢子さんを招いて「シルクスクリーンで蔵書票を作ろう」というワークショップを行いました。2日間の工程で、1日目は多色刷りのオリジナルを作成するための下絵づくりを行い、2日目は下絵を元に笠嶋さんが版を制作し、飛騨市の手漉き和紙である山中和紙に実際に刷ってみました。なかなか難しい作業もありましたが、少人数制で行われていたので、笠嶋さんから密に指導を受けられ、とても満足度が高かったようです。出来上がった蔵書票も個性豊かで1枚1枚の風合いがあり、版画の面白さも伝わる内容となりました。飛騨市美術館では、「今回の助成金も活用し、普段と違い遠方から講師の方を呼べたので、内容も広がりが出来、今後のネットワークにもなった」と話してくれました。

辰野美術館、飛騨市美術館での展覧会の後、COCONOアートプレイスへと巡回し(10月10日～11月23日)、最後はしもだて美術館で12月12日～2027年1月31日まで開催されます。ぜひお近くの会場へ足をお運びください。

また、令和9・10年度市町村立美術館活性化事業「淡く透き通る風景・水彩画の魅力—東御市丸山晚霞記念館、東御市梅野記念絵画館所蔵品を中心に—」展の参加館を現在募集しています(10月30日締切)。ご応募をお待ちしています。

●令和7・8年度市町村美術館活性化事業 準備年度の取り組みをYouTubeでご覧いただけます。

https://www.youtube.com/watch?v=EwB_delnJrw



●令和9・10年度市町村立美術館活性化事業の募集については実施要綱をご確認ください。当財団ホームページからダウンロードできます。

募集締切：2026年10月30日(金)
<https://www.jafra.or.jp/docs/14271.html>

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●ステージラボに関する問い合わせ
芸術環境部 益子・児島
Tel. 03-5573-4066

●地域創造セミナー実施要項・申請書
は当財団ホームページからダウンロード
できます。

◎問い合わせ
芸術環境部 益子
Tel. 03-5573-4066

●地域創造フェスティバル2026
シンポジウムのアーカイブ配信の
お知らせ

地域創造フェスティバル2026にて
開催したシンポジウム「評価はコミ
ュニケーションだ!～公立文化施設
における評価の取り組みと活用
～」のアーカイブ映像を配信いたし
ます。評価の実践事例をもとに貴
重なディスカッションを行いました
ので、ぜひご視聴いただけると幸
いです。

視聴を希望する方は、下記フォー
ムよりお申し込みください。
[https://www.jafra.or.jp/event-request/
symposium2026archive/](https://www.jafra.or.jp/event-request/symposium2026archive/)

◎問い合わせ
芸術環境部 益子・児島
Tel. 03-5573-4066



●ステージラボ四日市セッション開催のお 知らせ

ステージラボは、公立文化施設等の職員を
対象として、事業の企画制作や施設運営、地
域との関わりなど、ホール、劇場等のソフト面
の運営に欠くことのできない要素を体得する
ことを目的に開催する研修事業です。ワーク
ショップ等体験型プログラムやグループディス
カッションなど、講師と参加者の双方向コミュ
ニケーションを重視した少人数ゼミ形式の実
践的な内容が特徴です。

令和8年度の後期セッションは、四日市市文
化会館にて3コースで開催します。詳細や参加
者募集は、次号(11月号)の地域創造レターお
よび当財団ホームページでお知らせします。

◎ステージラボ四日市セッション概要

[日程]2027年2月2日(火)～5日(金)
※公立ホール・劇場マネージャーコースのみ
2月2日(火)～4日(木)
[会場]四日市市文化会館
(三重県四日市市安島2-5-3)

[開講コース(予定)と対象となる職員の目安]

●ホール入門コース

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地
域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公
共ホール・劇場において業務経験年数1年半未満
の方

●自主事業コース

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地
域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自
主企画による事業を実施している公共ホール・劇場
において業務経験年数が2～3年程度の方

●公立ホール・劇場マネージャーコース

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地
域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公
共ホール・劇場において管理職程度の職責をもつ方



令和8年度ステージラボ鶴岡セッションの様子

●令和9年度「地域創造セミナー」実施団 体募集

地方公共団体職員および公立文化施設職
員等を対象とした研修会に対し、地域創造が
講師派遣費用を負担する「地域創造セミナー」
の令和9年度実施団体の募集を開始します。

本事業が対象としている研修会は、文化・
芸術の振興による創造性豊かな地域づくりに
加え、都道府県内の地方公共団体および文化
芸術団体の相互連携や、文化芸術団体と他
の領域の団体のネットワーク構築など広域的
な連携強化を目的とする内容等としています。
講演会のテーマや内容は、地域課題や今後取
り組みたい施策などを基に決定します。研修
会は、講師による講演のほか、テーマや要望
に応じてワークショップを実施することが可
能です。

地域課題に対する文化・芸術の視点での検
討や、地方公共団体をはじめとする多様な主
体の連携による広域的な文化・芸術を活用し
た新たな施策等の検討など、これからの地域
の取り組みを考える上で有益な情報を有識者
や先駆者から得ることのできる絶好の機会と
なります。今回の募集より申請可能団体を拡
大しておりますので、要綱をご確認の上ぜひ
ご活用ください。

募集締切:2026年10月30日(金)必着

●「特別寄稿 ビューポイント view point」 No.24掲載について

地域創造ホームページ限定で、有識者やキ
ーパーソンから文化芸術および公立文化施設
等におけるチャレンジングな取り組みを寄稿し
ていただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント
view point」。

24回目となる今回は、アーツ前橋チーフキュ
レーター、前橋国際芸術祭 2026プログラムディ
レクター、東京藝術大学准教授の宮本武典
氏にご寄稿いただきました。

[https://www.jafra.or.jp/library/other/6902.
html](https://www.jafra.or.jp/library/other/6902.html)

◎問い合わせ
芸術環境部 岩下
Tel. 03-5573-4093



▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
芸術環境部 岩下・益子

●2026年12月号情報締切
10月19日(月)

●2026年12月号掲載対象情報
2026年12月～27年3月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●岩手県釜石市

釜石市民ホールTETTO
〒026-0024 釜石市大町1-1-9
Tel. 0193-22-2266 阿部
<https://tetto-kamaishi.jp/>

きつとてと 2026

「きつと出会う素敵な人 TETTOで繋がる大切なもの」をテーマに、バンドや合唱のライブパフォーマンス、ハンドメイドマーケット、屋台の出店などが全館で行われる、釜石や東北の魅力が盛りだくさんの2日間。5回目の今回は、90を超える個人・団体が参加予定で、さまざまな表現の中から共感できる人や活動に出会える。小学生以上を対象としたバックステージツアーも実施予定。

[日程]10月3日、4日
[会場]釜石市民ホールTETTO

●宮城県大崎市

大崎市教育委員会
〒989-6154 大崎市古川三日町1-1-1
Tel. 0229-21-1466 井上
<https://www.city.osaki.miyagi.jp/shisei/soshikikarasagasu/kyoikuiinkajimukyoku/shimingalleryozetsunoyakata/index.html>

大崎市誕生20周年・大崎市民ギャラリー開館30周年記念 特別展「かわいい 楽しい 江戸絵画 ―若冲・芦雪・蕪村―

江戸時代の「かわいい」「楽しい」表現に注目し、難しいと思われがちな日本美術を身近に感じることのできる展覧会(日時指定予約制)。東北初公開となる伊藤若冲や長沢芦雪、与謝蕪村の水墨画等約20点が紹介される。江戸時代に生きた絵師たちが如何にして豊かな表現を生み出してきたのか、時代を超えて愛される江戸絵画の魅力に迫る。関連イベントとして、監修者による講演会やワークショップも開催。

[日程]10月7日～18日
[会場]大崎市民ギャラリー緒絶の館

●山形県大石田町

大石田町・大石田町教育委員会
〒999-4112 北村山郡大石田町緑町28
Tel. 0237-35-2094 大橋
<http://niji.town.oishida.yamagata.jp/index.html>

大石田どきどきダンスフェスティバル4「帰ってきた Shawn Rawls ～ダンスで繋ぐ大石田とNY～」

ダンサーの大橋武司(現虹のプラザ文化芸術プロジェクト統括マネージャー)が立ち上げた「大石田AIR」の企画によるアーティスト・イン・レジデンス事業。今回は2022年に大きな反響を呼んだニューヨークのダンスカンパニー Emotions Physical Theatreが再び来町。10月18日の後半では、同カンパニーが大石田町で滞在創作した新作を発表する。世界で活躍するアーティストと、地域で活動するダンサーや表現者が同じ舞台上に立ち、大石田とNYをダンスでつなぐ、ここでしか出会えない感動の2日間をお届けする。

[日程]10月17日、18日
[会場]大石田町町民交流センター虹のプラザ

●福島県いわき市

いわき市立美術館
〒970-8026 いわき市平字堂根町4-4
Tel. 0246-25-1111 猪狩
<https://www.city.iwaki.lg.jp/artmuseum.html>

ニューアートシーン・イン・いわき 渡邊洵 鱗次輪行

1991年より続く、いわきと近隣地域にゆかりのある現代作家を紹介する展覧会シリーズ。今回は、映像を中心にパフォーマンスやドローイング、刺繍、小説の

執筆など、さまざまな手法で平面から立体まで幅広い表現活動を行う、いわき市出身の作家・渡邊洵を取り上げ、いわきや福島県浜通りを取材して創作した作品を通じて、故郷と自らの現在地を表現する。

[日程]9月12日～11月1日
[会場]いわき市立美術館

関東

●栃木県足利市

あしががフラワーパークプラザ(足利市民プラザ)
〒326-0823 足利市朝倉町264
Tel. 0284-72-8511 関谷
<http://shimin-plaza.ashikaga-mbs.or.jp/>

足利ミュージカル第13回定期公演 アートの街 ASHIKAGA Season3「色彩の旅人～足利が生んだ画家 川島理一郎～」

市民参加型ミュージカルなどをきっかけに2013年に発足した芸術団体「足利ミュージカル」の定期公演。今回は足利市出身の洋画家・川島理一郎(1886～1971)を取り上げ、フランスでピカソや藤田嗣治らと交流し、東京とパリの芸術文化をつないだ足跡をたどる。宝塚歌劇団OBをはじめとしたプロの俳優と公募による市民が力を合わせてつくり上げる。

[日程]10月25日
[会場]あしががフラワーパークプラザ(足利市民プラザ)

●群馬県高崎市

群馬県立近代美術館
〒370-1293 高崎市綿貫町992-1(群馬の森公園内)
Tel. 027-346-5560 神尾
<https://mmag.pref.gunma.jp/>

孤高の彫刻家 村山琴泉

前橋出身の彫刻家・村山琴泉(1885～1967)は、1900年に上京して牙彫で頭角を現し、1910年に帰郷後は木彫に専念するよ

うになったほか、「琴仙焼」と称した石彫も考案するなど、独自の道を歩み活躍してきた。彫刻の歴史を多角的にとらえる試みが盛んな今、琴泉の作品や写真資料など約100点を美術館で初めて展示する。

[日程]9月19日～11月8日
[会場]群馬県立近代美術館

●埼玉県草加市

草加市文化協会
〒340-0013 草加市松江1-1-5
Tel. 048-931-9325 手塚
<https://soka-bunka.jp/>

国際ハープフェスティバル2026 —草加市

音楽都市宣言のまち・草加の音楽と文化のまちづくりを代表するイベント。1989年に第1回が開催され、これまでに延べ200人を超える海外アーティストが演奏してきた。今年度は世界で最も権威のあるハープのコンクールのひとつ「イスラエル国際ハープ・コンテスト」で優勝した唯一のイスラエル人ハーピストのシヴァン・マゲンと雅楽師の東儀秀樹を迎えて実施。フェスティバル前にも草加市内および周辺自治体にて関連イベントを多数実施予定。

[日程]11月15日
[会場]草加市文化会館

●東京都世田谷区

せたがや文化財団
〒154-0004 世田谷区太子堂4-1-1 5F
Tel. 03-5432-1526 佐藤
<https://setagaya-pt.jp/>

世田谷アートタウン2026関連企画 「ヴェッセル —宇宙の旅—」

「世田谷アートタウン2026『三茶de大道芸』(10月17日、18日)の関連企画として行われる、スウェーデン発の現代サーカスカンパニー、ザ・ヴェッセル・プロダクションズによる初来日公演。3

人のサーカスアーティストが互いを信じ、支え合いながら未知へと旅をする現代サーカス作品。息の合った関係性から立ち上がるのは、協働と信頼が生み出す温かな世界観。人と人が支え合うことの美しさ、共に挑むことの豊かさを、宇宙という大きな舞台に重ねて描く。

[日程]10月23日～25日
[会場]せたがやイーグレットホール(世田谷区民会館)

●東京都港区

六本木アートナイト実行委員会
Tel. 050-5541-8600(ハローダイヤル)
<https://roppongiartnight.com/2026/>

六本木アートナイト 2026

六本木の街を舞台に開催される現代アートやデザイン、音楽、映像、パフォーマンスが集結するアートの祭典。今年は3年ぶりにオールナイト開催が復活し、美術館や複合施設、公共空間などを舞台に約60のプログラムを展開。開催回ごとにさまざまな国や地域のアートに注目する「RAN Focus」では、六本木アートナイトの元となった「ニュー・ブランシュ(白夜祭)」の本場であるフランスに焦点を当てるほか、国内外の多彩なアートとの出会いを創出する。

[日程]10月31日、11月1日
[会場]六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース

●横浜市

KAAT 神奈川芸術劇場
〒231-0023 横浜市中区山下町281
Tel. 045-633-6500 笠田・佐藤梓
<https://www.kaat.jp/>

KAAT×阿佐ヶ谷スパイダース 『ジャングル』

KAAT芸術監督・長塚圭史演出による話題作。フランス北部の港町・カレーに実在した難民キャンプを題材に、移民・難民問題や人々の分断、不寛容を描く。異なる言語や文化をもつ人々が希望と葛藤の中で生きる姿を通して、「人間らしさとは何か」を問いかける。臨場感あふれる舞台美術と客席空間により、観客を物語の世界へと引き込む。

[日程]10月10日～11月1日
[会場]KAAT 神奈川芸術劇場

北陸・中部

●新潟県南魚沼市

南魚沼市トミオカホワイト美術館
〒949-7124 南魚沼市上薬師堂142
Tel. 025-775-3646 角田
<https://www.6bun.jp/white/>

富岡惣一郎「果てしなき白の旅」

雪深い上越市に生まれた洋画家・富岡惣一郎(1922～94)は、故郷の厳しくも美しい冬の景色を心に刻み、雪を主題とした作品を多数遺した。純白の世界を表現するための情熱は、納得のいく白色油絵の具をメーカーと共同して開発するに至り、ペインティングナイフやキャンパスも特注して唯一無二の作品群を生み出した。本展では、初期から晩年までの作品で“白の軌跡”をたどる。

[日程]7月18日～11月17日
[会場]南魚沼市トミオカホワイト美術館

●石川県金沢市

金沢市民芸術村
〒920-0046 金沢市大和町1-1
Tel. 076-265-8300 内山
<https://www.artvillage.gr.jp/>

金沢市民芸術村開村30周年 記念 三工房合同特別企画 「いきもの、集合。」

金沢市民芸術村の開村30周年

を記念し、ドラマ工房、ミュージック工房、アート工房から成る芸術村の全工房がひとつの舞台をつくり上げる。金沢三文豪のひとり、室生犀星の残した『動物詩集』を題材に、芸術村に集まる人々をリンクさせた物語を創作。出演や合唱、衣装・舞台美術制作のすべてに市民が参加し、市民を主役に活動してきた芸術村のこれまでとこれからが凝縮した舞台となる。

[日程]10月4日
[会場]金沢市民芸術村



創作の様子(ドラマ工房) 写真:FOCUS

●福井県福井市

福井県文化振興事業団
〒918-8152 福井市今市町40-1-1
Tel. 0776-38-8288 塚崎
<https://www.hhf.jp/>

越のルビープロジェクトSpecial お話と歌でたどる愛の悲劇 —オペラハイライト『蝶々夫人』

鯖江市出身のソプラノ歌手・吉田珠代が“福井のため”に贈る特別企画。国内外の第一線で活躍する歌手陣が集い、構成・演出は世界各国の歌劇場で活躍してきたオペラ演出家・田口道子が担当。ブッチェーニの名作オペラ『蝶々夫人』ハイライトを、この作品を知り尽くした視点での語りを加えて上演する。9月19日、20日には田口による「声楽マスタークラス」も開催。

[日程]10月18日
[会場]ハーモニーホールふくい

●長野県小布施町

おぶせミュージアム・中島千波館

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

〒381-0201 上高井郡小布施町大字小布施595
Tel. 026-247-6111 佐々木
<https://www.town.obuse.nagano.jp/site/obusemuseum/>

おぶせミュージアム・中島千波館 ×長野県立美術館 交流名品展 「信州のダイナミズム―疎開画家たちの作品を中心に」

長野県立美術館と県内各地域の美術館が双方のコレクションを活用し、協働で企画・立案・実施する企画「交流名品展」。本展では信州ゆかりの作家の近代や戦時中の作品、信州の疎開画家の作品、そして戦争体験を経た画家の作品などを中心に紹介。変化し続ける時代のなかで、たゆまず続けられてきた創作の軌跡をご覧ください。
[日程] 8月8日～10月5日
[会場] おぶせミュージアム・中島千波館

●長野県上田市
サントミュージゼ(上田市交流文化芸術センター)
〒386-0025 上田市天神3-15-15
Tel. 0268-27-2000 田澤
<https://www.santomyuze.com/>

Santomyuze presents ないまぜライブ vol.1 U-zhaan × 原田郁子

今年新たに始まるライブ企画の第1弾。インドの打楽器「タブラ」奏者・U-zhaan(ユザーン)とクラムボンのボーカル&鍵盤・原田郁子によるデュオライブをお届けする。関連企画ではインド音楽の奥深い魅力を紹介。異なるもの同士が“ないまぜ”となった、垣根を越えた新たな展開をテーマに、今後もさまざまなジャンルのコラボ企画を予定している。
[日程] 10月23日
[会場] サントミュージゼ(上田市交流文化芸術センター)

●岐阜県岐阜市
サラマンカホール
〒500-8384 岐阜市葦田南5-14-53
Tel. 058-277-1113 内田
<https://salamanca.gifu-fureai.jp/>

STRINGS FESTIVAL 2026

弦楽器を主役に展開する音楽祭。ぎふ弦楽器貸与プロジェクト「STROAN」で県が寄贈を受けたヴァイオリンやヴィオラ、チェロ計40挺の貸与を受ける若手演奏家たちの成果発表の場として公開レッスンとソロコンサート、弦楽合奏コンサートを行う「STROAN CONCERT II」(10月11日・12日)、前橋汀子(10月10日)と辻彩奈(11月21日)のヴァイオリン・リサイタルを実施。
[日程] 10月10日～12日、11月21日
[会場] サラマンカホール

●愛知県西尾市
にしん文化会館
〒445-0877 西尾市山下町泡原30
Tel. 0563-54-5855 品川
<https://nishiobunka.jp/>

第1回 にしお羽ばたきコンサート

地域ゆかりの演奏家の発表機会の創出や、次代を担う音楽家の育成などを目指し、愛知県にゆかりのある新人・プロ演奏家によるコンサートを初開催。公募により選出された新人8組、プロ演奏家2組のほかゲスト1組が出演。当館の特色であるスタインウェイピアノ2台を活用し、若手演奏家から第一線で活躍する演奏家まで、それぞれの個性あふれる演奏を披露する。
[日程] 10月18日
[会場] にしん文化会館 茶々とホール

近畿

●三重県四日市市
四日市市文化会館
〒510-0075 四日市市安島2-5-3

Tel. 059-354-4501 油田
<https://yonbun.com/>
愛知室内オーケストラ『再会』の演奏会

改修工事を経た四日市市文化会館の再開を記念した記念コンサート。文化会館での演奏経験も多い愛知室内オーケストラが、老若男女問わず楽しめる楽曲の数々を演奏する。休館期間を機に制作した加藤昌則作曲のオリジナル開演ベル「クスノキベル」が生演奏でお披露目となるのも見どころ。開館前の8月から、関連企画として経験を問わず受講できる演奏クリニックやミニコンサートも開催。
[日程] 10月4日
[会場] 四日市市文化会館

●滋賀県大津市
滋賀県立美術館
〒520-2122 大津市瀬田南大萱町1740-1
Tel. 077-543-2111 山田
<https://www.shigamuseum.jp/>

丸木スマ展 73歳からのアーティスト

広島で被爆してから3年後、73歳で絵筆を執り、画壇デビュー後は81歳で没するまでひたすらに描き続けた丸木スマ(1875～1956)。多くの失われた命を目の当たりにする過酷な経験を経てなお、身近な草花や生き物を色鮮やかに描き、生命の輝きを見つめ続けた。本展では初期から晩年までの約130点を紹介。ス



丸木スマ肖像

マの長男で画家の丸木位里や妻の丸木俊による作品、家族の歩みを伝える写真、同時代の文化人たちの評価を物語る貴重な資料なども併せて展示される。
[日程] 9月11日～11月23日
[会場] 滋賀県立美術館

●兵庫県伊丹市
市立伊丹ミュージアム
〒664-0895 伊丹市宮ノ前2-5-20
Tel. 072-772-5959 新宮
<https://itami-im.jp/>

酒にのまれ展

はるか昔から日本の人びとに親しまれてきた酒に焦点を当てた展覧会。季節の風情とともに嗜まれた酒や、酒のアテ、酒席で交わされるさまざまな人間模様、酒に飲まれてしまった人びとのどこか憎めない姿など日本独自の酒文化を約150点の作品を通して紹介する。江戸時代の“アテ”を再現し、江戸時代の食と酒を楽しめる関連イベントも開催。
[日程] 10月16日～12月13日
[会場] 市立伊丹ミュージアム

●兵庫県豊岡市
兵庫県立円山川公苑美術館
〒669-6123 豊岡市小島1163
Tel. 0796-28-3085 松本
<https://maruyamagawa.com/>

日本画家 西田真人 展 ―風景の中の物語―

兵庫県を代表する日本画家・西田真人は、これまで人物画をはじめ、さまざまな題材と向き合ってきたが、今回は風景画を公開。イギリス風景をはじめ、各地の宮を巡っての風景作品、第10回日展で内閣総理大臣賞を受賞した《懐／2023年》も展示する。繊細に詩的に綴られたどこか懐かしい原風景を感じる作品は、思わず吸い寄せられる力がある。
[日程] 9月5日～11月3日

〔会場〕兵庫県立円山川公苑美術館

●奈良県奈良市

奈良県立美術館

〒630-8213 奈良市登大路町10-6

Tel. 0742-23-3968 松川

<https://www.pref.nara.lg.jp/n044/11842.html>

時代を越えて～日本画のゆくえ

「日本画」は、墨や膠、岩絵の具など日本古来の伝統的な画材を用いて描かれる絵画だが、西洋画の影響を取り入れるなど、現代に至るまで多種多様な展開を見せてきた。本展では、近代の優品を展示し、日本画のもつ魅力や特質にふれながら、その歴史的な流れを振り返る。特集展示として、奈良ゆかりの日本画家・庄田鶴友と植中直斎の作品も紹介。

〔日程〕9月19日～11月15日

〔会場〕奈良県立美術館

中国・四国

●島根県松江市

松江市スポーツ・文化振興財団

〒690-0017 松江市西津田6-5-44

Tel. 0852-27-6000 吉岡

<https://www.ploverhall.jp/>

3人のオルガニストによる 風の楽器コンサート

中四国地方の公立ホールで唯一大型パイプオルガンを備えるブラバホールの開館40周年記念事業。専属オルガニストとして活躍する米山麻美をはじめ、リードオルガンを中村証二、笙・アコーディオンを早川幸子が演奏。ソロをはじめ、さまざまなアンサンブルによる時代やジャンルを越えたプログラムで、新しい“風”の響きをつくり出すコンサート。

〔日程〕10月16日

〔会場〕さんびる文化センタープラハホール

●岡山県勝央町ほか

勝央町教育委員会

〒709-4316 勝田郡勝央町勝間田211-1

Tel. 0868-38-1753 竹内

<https://www.town.shoo.lg.jp/soshiki/28/>

The Four Muses～4人の女神～

岡山・兵庫・福岡の3館連携事業から誕生した4名のパーカッション・マリンバ奏者による夢のユニット「The Four Muses」(宮本安子・浜まゆみ・大熊理津子・野尻小矢佳)が贈る華麗でダイナミックなステージ。作曲家・徳永洋明が本事業のために書き下ろした3館連携オリジナルテーマ曲『曙光の刻』やマリンバの魅力や堪能できる名曲で編成されたプログラムに加え、各館それぞれでその土地にちなんだ曲も演奏予定。

〔日程・会場〕10月25日：勝央文化ホール／12月6日：新温泉町文化体育館夢ホール／12月13日：プラム・カルコア太宰府市民ホール

●山口県山口市

山口情報芸術センター〔YCAM〕

〒753-0075 山口市中国町7-7

Tel. 083-901-2222 永嶋

<https://www.ycam.jp/>

大友良英+YCAM 新作展 「即興！」

18年ぶりに大友良英とYCAMがタッグを組んだ大規模展覧会。多様な手法で表現の可能性やアンサンブルのあり方を拡張する試みに取り組んできた大友の原点ともいえる「即興」をテーマに、研究開発チーム〈YCAM InterLab〉と多ジャンルのアーティスト5名とのコラボレーションで、共演者や聴衆、環境などあらゆる要素との相互作用で生成される表現を3つの新作として発表するほか、昨年度、大友を迎えて創作した盆踊り『やまぐち盆唄(ぼんうた)』を市民楽団

と共に実施する。

〔日程〕10月17日～2027年3月1日

〔会場〕山口情報芸術センター

〔YCAM〕

●香川県丸亀市

シアターマド(丸亀市民会館)

〒763-0034 丸亀市大手町2-3-1

Tel. 0877-85-8971 内野

<https://marugame-theatre-mado.jp/>

THEATRE Mado開館記念事業 【国際共同制作】ニア・デ・ヴォルフ×四国学院大学×シアターマド“EVERYBODY DANCE NOW #JAPAN”

開館準備期間中もさまざまな連携事業を展開してきたシアターマドと四国学院大学。初の国際共同事業として、ベルリン在住の振付家ニア・デ・ヴォルフを迎えてダンス作品をクリエイションする。関連企画としてデ・ヴォルフによるワークショップが開催されるほか、ワーク・イン・プログレスでは作品や創作について語るアフタートークも予定している。

〔日程〕10月24日、25日

〔会場〕シアターマド(丸亀市民会館)

九州・沖縄

●福岡市

福岡アジア美術館

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル7・8F

Tel. 092-263-1100 中尾

<https://faam.city.fukuoka.lg.jp/>

第26回アーティスト・イン・レジデンスの成果展「視差—いつもそこに在るもの」

2026年度の第1期(7～10月)はネパール、ベトナム、シンガポールから3名の作家を招聘。各作家たちは、コミュニティ、聖なるもの、戦争の記憶などをテーマに、それぞれの視点から、私た

ちの身近にありながらも、ときに見過ごされてきたものに目を向けてきた。本展では、異なる場所や時間から見つめ直した、その“視差”から浮かび上がる福岡の姿を、各作家の作品を通して紹介する。

〔日程〕9月19日～10月5日

〔会場〕Artist Cafe Fukuoka

●福岡県春日市

春日市ふれあい文化センター

〒816-0831 春日市大谷6-24

Tel. 092-584-3366 星賀

<https://www.kasuga-fureai.jp>

ふれぶんアートマネジメント講座 活動報告会

2022年より開催しているアートマネジメント講座の報告会。5年間を通しての振り返りのほか、昨年5月より参加する「実践編」受講生の成果報告発表、東京藝術大学准教授・長津結一郎の公開講座、芸術文化観光専門職大学教授・古賀弥生などの専門家と地域のまちづくりを支える人々が集う「春日市で考える“芸術文化によるまちづくり”の可能性」をテーマにした座談会を行う。

〔日程〕10月18日

〔会場〕春日市ふれあい文化センター

●佐賀県有田町

佐賀県立九州陶磁文化館

〒844-8585 西松浦郡有田町戸杓乙3100-1

Tel. 0955-43-3681 藤原

<https://saga-museum.jp/ceramic/>

特別企画展 柿右衛門窯跡発掘調査50周年記念「柿右衛門とマイセン 旅する花文様—陶磁の東西交流—」

江戸時代に肥前有田で製作された柿右衛門様式の磁器は、柔らかく温かみのある乳白色の濁し手素地と優美で華麗な色彩から欧州市場で高く評価さ

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

れ、欧州の磁器に大きな影響を与えた。特にマイセン窯では1730年代を中心に精巧な柿右衛門様式製品がつくられた。本展ではマイセン窯の誕生から柿右衛門様式が与えた影響について焦点を当てる。

[日程]10月3日～12月6日

[会場]佐賀県立九州陶磁文化館

●長崎県長崎市

ベネックス長崎ブリックホール
〒852-8104 長崎市茂里町2-38
Tel. 095-842-2002 道上
<https://www.brickhall.jp>

NAGASAKI JAZZ & CLASSIC FESTIVAL 2026

昨年4月に指定管理者が変更となり、自主事業の運営を始めることとなった長崎ブリックホールが、クラシックとジャズを融合させた新たな音楽祭を長崎に立ち上げる。クラシック界で世界的に活躍するピアニスト・辻井伸行と、ジャズ界の新進気鋭のトランペッター・松井秀太郎をメインアーティストに迎え、長崎の一大祭り「長崎くんち」と繋げた日程で12のプログラムを展開する。

[日程]10月10日～12日

[会場]ベネックス長崎ブリックホール、長崎県美術館、十八親和ホール・長崎創楽堂

●大分県豊後大野市

豊後大野市総合文化センター
エイトピアおおの
〒879-7125 豊後大野市三重町内田878
Tel. 0974-22-8000 渡辺
<https://www.bungoohno-bunka.jp/>

市民参加型 音楽朗読劇

『ほむらの、きずな』—新解釈・真名野長者物語—

エイトピアおおのが市民の参加機会創出を目的に毎年公募している実行委員会事業の一つとして開催される音楽朗読劇公演。

市民ミュージカルでの出会いをきっかけに結成された演劇サークル「ぶんどおおのキラットカラット劇場」(キラカラ劇場)による上演で、全国で市民参加作品に携わる市村啓二が脚本・演出を担当。豊後大野に伝わる「真名野長者物語」を、現代にもつながるメッセージを込めた新たな解釈で描く。

[日程]10月31日

[会場]エイトピアおおの



稽古場風景 ©2026加藤葉子

●宮崎県都城市

都城市総合文化ホール
〒885-0024 都城市北原町1106-100
Tel. 0986-23-7140 千代森
<https://mj-hall.jp/>

本とごはんのフェスティバル 2026～心とからだに美味しい栄養を～

都城市内の飲食店と文学作品をマッチングし、食事と生演奏と俳優たちによるリーディング公演を楽しめる小規模公演を展開するフェスティバル。三重県で行われているMPADを参考に2023年からスタートし、今年で4回目を迎える。最終日にはホールのあちこちで本とごはんを味わえる企画が開催され、ホール公演では俳優たちによるセッション朗読や都城をテーマにした公募の短編小説を市民が群読する。

[日程]9月30日～10月4日

[会場]都城市総合文化ホール

特集 アートプロジェクト・芸術祭

全国各地で開催されている多彩なアートプロジェクト、芸術祭等を紹介しします。

*開催地の北から順に掲載。
⑤は会場、④は問い合わせ先です。
(➡は地域創造助成事業)

●青森県青森市、弘前市

10月31日～11月8日

青い海と森の音楽祭2026

故郷にクラシック音楽の種をまきたいとの思いで、青森出身の音楽家と地元新聞社を中心に昨年立ち上げた音楽祭。学校や福祉施設でのアウトリーチ(出前演奏会)とホール公演を組み合わせ、国内外で活躍する音楽家が青森県内各地に音楽を届ける。第2回の今年は、アウトリーチ先の公募で新たな地域を会場に演奏会を行うほか、青森公立大学での室内楽公演では学生も企画運営に携わり、共に音楽祭をつくり上げる。

⑤リンクステーションホール青森ほか

④青い海と森の音楽祭 事務局
Tel. 017-718-1135

●山形県山形市

11月5日～15日

第1回みちのおくの芸術祭2026「やまのひかり」

2014年に始まった「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ」が今年、市民参加型の芸術祭へと生まれ変わる。現在の山形県が誕生して150周年の節目に、山形の風土や、この地に住まう人々の創造力に光を当てた「やまのひかり」をテーマに開幕。市民100人からBOXアートを公募する「100のひかり」展などを実施し、市民と共に作り上げる芸術祭を目指す。

⑤山形美術館、美術館前スクエ

ア、THE LOCAL(やまがたクリエイティブシティセンターQ1内)ほか

④東北芸術工科大学 みちのおくの芸術祭事務局

Tel. 023-627-2218



2024年の開催風景

●茨城県水戸市ほか

10月16日～25日

水戸国際音楽祭2026

「音楽×観光」をコンセプトに開催される地域回遊型の音楽祭。総合ディレクターは作曲家の中堀海都。昨年はプレ開催として平田オリザ脚本によるシアターオペラや音楽園での野外公演の開催により、地域資源と音楽を結びつける可能性を探り、今年から本格的にスタート。ホールだけでなく歴史的建築や海辺などを舞台に多彩な公演が行われる。武満徹没後30年を記念した特別公演がオープニングを飾る。⑤水戸市民会館、笠間稲荷神社ほか県央5エリア ④水戸国際音楽祭2026 実行委員会事務局 info@mito-musicfestival.jp

●栃木県鹿沼市

11月8日～22日

AWANO 夢咲く ART FESTIVAL 2026

市立中学校に赴任した美術教師が「生徒に本物の美術作品を見せたい」「作家と共に鑑賞をしたい」という思いから始まった地域密着型の芸術祭。9回目の今回も現役の中学校と廃校となった旧校舎という対照的な空間を舞台に、絵画や彫刻など多彩な作品を紹介する。アートステ

ジやワークショップ、マルシェなども予定され、美しい里山の風景や地域の文化とともに、芸術を「見て、体験して、味わう」。

☎旧栗野中学校、蔵のギャラリー、鹿沼市立栗野中学校ほか

📍特定非営利活動法人花と芸術の街・あわの実行委員会
mail@awanoartfestival.com

●群馬県高崎市

9月26日～10月12日

第37回高崎音楽祭

今年で37回目を迎える恒例の音楽祭。群馬交響楽団の公演を皮切りに、クラシックやロック、ポップス、ジャズ、ラテンなど幅広いジャンルのステージを展開する。0歳から楽しめるオーケストラ「高崎こどもコンサート」や、ピアニスト・角野隼斗とユッカ＝ベッカ・サラステ指揮によるヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団の公演など、全23公演を開催。

☎高崎芸術劇場
📍高崎音楽祭委員会

Tel. 027-322-9195

●千葉県旭市

10月11日～31日

(期間中の金土日祝)

あさひ街ぶら芸術祭2026

JR旭駅周辺商店街などを舞台に開催されるアートイベント。4回目となる今年は「アートとカレー」をテーマに、まちの風景や文化にインスピレーションを得た多彩な作品が多数展示される。メイン展示として市民と共同制作する巨大なタージ・マハールが登場。最終日にはカレーフェスや仮装パレード「百鬼夜行」も予定され、街歩きと芸術、食を一体で楽しめる。

☎JR旭駅周辺商店街、ちば醤油アート広場ほか

📍あさひの芸術祭実行委員会
(旭市中央地区包括支援センター内) Tel. 0479-85-5371

●東京都 10月10日～12月20日

国際美術展「TOKYO ATLAS」

「東京を国際的な芸術都市へ」を掲げ、臨海部を舞台にスタートする大型美術展。「ATLAS＝地図帳」の名のとおり、作品を巡りながら東京という都市を新たな視点から読み解く。国内外の著名なアーティストが参加し、美術館のほか、水辺や公園、使われていない地下駐車場などを活用したダイナミックな展示が展開される。東京都が支援してきた若手作家・キュレーターによる特別展「座標」も同時開催。

☎台場・青海・天王洲エリア6会場
📍国際美術展「TOKYO ATLAS」広報事務局 Tel. 03-6894-3200

●東京都北区

10月31日～12月12日

北とびあ国際音楽祭2026

1995年にスタートした国際音楽祭。古楽から現代音楽まで幅広い年代のクラシック音楽と世界の伝統音楽がラインナップされることが特徴。今年は、モーツァルト作曲のオペラ『偽の女庭師』がピリオド楽器(古楽器)を使用したセミ・ステージ形式で上演されるほか、ルネサンス期のヴェネツィアの宗教曲を味わうことのできるコンサートなど、約20公演を予定している。

☎北とびあ ほか

📍北区文化振興財団

Tel. 03-5390-1221

●神奈川県逗子市

10月3日～25日

逗子アートフェスティバル2026

2013年から開催しているアートイベント。今年は「はじまりの未来、はじまりの場。」をテーマとして、歴史的建造物・旧本多邸をメイン会場に、逗子市街エリアや沼間エリアの路地など街全体を舞台とした多彩なプログラムを展開。国内外のアーティスト

による展覧会をはじめ、池子の森の音楽祭、市民参加型プロジェクトなどを実施する。

☎旧本多邸、逗子文化プラザホール、池子の森自然公園 ほか

📍逗子アートフェスティバル実行委員会 Tel. 046-873-1111

●長野県松本市

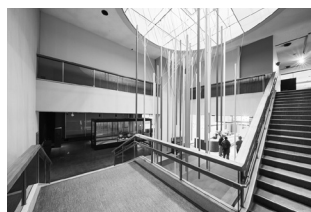
11月3日～12月13日(第2期)

マツモト建築芸術祭2026

ADVANCE

2022年に始まった、歴史的建築物の価値を再発見し、建築とアートの融合を通じて松本の魅力を発信するアートフェスティバル。今年は「東アジア文化都市2026松本」のメインプログラムとして2期構成で行われ、第1弾(2月14日～3月15日)は松本市立博物館で国内外9組の作家による「映像アート祭」を実施。秋の第2弾では約20会場を舞台に、建築そのものを作品としてとらえながらアートを展開する。

📍旧開智学校校舎、旧第一勧業銀行松本支店ほか市内各所
☎マツモト建築芸術祭実行委員会事務局 Tel. 0263-87-8631



2024年展示風景

●浜松市 10月17日～25日

第34回ハママツ・ジャズ・ウィーク

音楽のまち・浜松で1992年に始まったジャズの祭典。国内外の一流アーティストが出演する「ヤマハ ジャズ フェスティバル」をはじめ、学生ビッグバンドが競演する「スチューデントジャズフェスティバル」、親子で楽しめる「ファミリー-JAZZコンサート」、無料の「ストリート ジャズフェスティバ

ル」など、市内各所で多彩なプログラムが展開される。今年はマイルス・デイヴィスとジョン・コルトレーンの生誕100周年を記念した企画も開催。

☎アクトシティ浜松ほか市内各所
📍ハママツ・ジャズ・ウィーク事務局 Tel. 053-460-3325



昨年の「ヤマハ ジャズ フェスティバル」

●京都市 10月3日～25日

KYOTO EXPERIMENT

京都国際舞台芸術祭 2026

国内外の先鋭的な舞台芸術を紹介し、創造と交流の実験を試みる芸術祭。今年は「ポケットに石ころ」をテーマに、分断や紛争が深まる時代に記憶や物語を“運ぶ”舞台芸術の役割を問い直す。国内外のアーティスト19組が演劇やダンス、音楽、美術などジャンルを横断した作品を紹介する「Shows」を中心に、関西をフィールドワークで探究する「Kansai Studies」、トークやワークショップを通じて社会と芸術を考える「Super Knowledge for the Future [SKF]」など、多彩なプログラムが展開される。

☎ロームシアター京都、京都芸術センター、京都芸術劇場 春秋座、THEATRE E9 KYOTO ほか
📍KYOTO EXPERIMENT事務局 Tel. 075-213-5839

●京都府亀岡市

10月10日～25日

城跡芸術展2026

亀岡にゆかりのある作家の作品を城跡の風景とともに楽しめる展覧会。今年は「風景を引き継ぐー城跡から亀岡へ」をテーマにアーティスト27組が参加し、丹

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

波亀山城跡や植物園で展示されるほか、昨年に引き続きディレクションを担当するアーティストユニット・副産物産店によるミュージアムショップも拡張。また、同時期に市内で開催する緑化フェアともタイアップし、歴史や文化、自然などあらゆる切り口で亀岡を体感できる。

☎丹波亀山城跡(大本本部)ほか
☎かめおか霧の芸術祭実行委員会 Tel. 0771-55-9655



昨年の展示風景

●神戸市 8月29日～11月29日 神戸六甲ミーツ・アート2026 beyond

自然と現代アートを組み合わせて楽しむ恒例の芸術祭。観光施設や植物園、展望台などにさまざまな作品が展示され、六甲山そのものをアート空間として楽しめる。17回目となる今年も奈良美智や井上涼、中野信子ら多彩な国内外約60組のアーティストが参加。また特別寄託作品として、先日逝去した草間彌生の《南瓜》がメイン会場のROKKO森の音ミュージアムの野外アートゾーンに展示される。

☎ROKKO森の音ミュージアム、兵庫県立六甲山ビジターセンター、六甲ガーデンテラスエリアほか六甲山上各所
☎神戸六甲ミーツ・アート事務局 Tel. 078-891-0048

●和歌山県白浜町 10月31日～11月3日 第6回白良浜deひらひらTシャツアート展 「福祉×アート×観光」をテーマ

にした参加型のバリアフリーアートイベント。全国から寄せられた絵画や写真、イラスト、書などを地元のオーガニックコットン100%のTシャツに印刷して、関西屈指の美しい砂浜に一斉に展示する。車いすでも走行できるビーチマットが設置されるなどバリアフリーに取り組むほか、コンサートやコンテスト、福祉施設や障がいのある人による青空マーケットなども実施される。

☎白良浜
☎しらひらバリアフリーアート実行委員会(NPO法人ころん内)
Tel. 0739-33-2278



昨年の展示風景

●鳥取県鳥取市 9月18日～10月4日 鳥の演劇祭19

鳥取市鹿野町の鳥の劇場を中心に開催される、国内外の劇団やアーティストが集う国際演劇祭。今年は鳥の劇場の創立20周年を記念して、鈴木忠志のSCOTや、これまで演劇祭で印象的な作品を上演してきたカンパニーや交流の深いカンパニーが集結する。小さな城下町で世界の演劇と出会い、人や文化の多様性、そして演劇がもつ力を体感できる貴重な機会。

☎鳥取市鹿野町内各所(鳥の劇場、議場劇場、鹿野往来交流館 童里夢ほか)
☎鳥の劇場運営委員会
Tel. 0857-84-3612

●岡山県、愛媛県 10月3日～31日 瀬戸内産業芸術祭2026

国土交通省が推進するレガシー形成事業の一環として、造船や石材業、鉄鋼業、食文化など瀬戸内地域に根付く多様な産業の魅力を、非日常の視点で再発見する新たな芸術祭。妹島和世や長谷川祐子らの監修により、普段は入る機会の少ない稼働中の工場や産業施設が現代アートの作品空間へと姿を変え、アーティストが職人の技術や働く人々の営みを独自の視点で再解釈した作品を展示する。

☎岡山県(岡山市・玉野市・倉敷市)、愛媛県(東温市)の工場・産業現場7会場
☎瀬戸内産業芸術祭 事務局
(日本産業芸術財団内)
info@sai-art.jp

●香川県内全域 10月1日～12月31日 かがわ文化芸術祭2026

“誰もが、気軽に参加できる”文化芸術の祭典。68回目の今年は、「ひらく、つながる、ひろがる～かがわの今・昔・未来～」というキャッチコピーのもと、県内各地で多彩なジャンルの文化芸術活動を展開する。生演奏とテクノロジーが織り成す総合舞台公演「さぬき今昔ものがたり～未来へのまなざし～」(11月22日/レクザムホール)をはじめ、アートワークショップや展覧会、映画祭など幅広いプログラムが展開される。

☎香川県内各地の文化施設など
☎かがわ文化芸術祭実行委員会事務局 Tel. 087-832-3785

●高知県内全域 8月30日～12月6日 第76回高知県芸術祭 3カ月にわたり高知県全域で開催される芸術祭。注目は「地域×アート」をテーマに、2014年から続くKOCHI ART PROJECTS(KAP)。高知県の助成事業に採

択された個人・団体による地域資源を生かした公演や展示、ワークショップなどが県内各地の文化施設や神社などで行われ、地域に受け継がれる伝統芸能や伝承などに芸術を通してふれることができる。

☎高知県内各所
☎高知県文化財団
Tel. 088-866-8013

●鹿児島県南種子町 第一部：11月21日、22日 第二部：12月5日、6日 種子島宇宙芸術祭2026

日本最大のロケット発射場を有する南種子町にて開催される宇宙芸術祭。第一部では、宇宙ヶ丘公園を舞台に、大型アート作品群の展示やジャズライブを開催。第二部では、海蝕洞窟である千座の岩屋を舞台に、プラネタリアムの投影をはじめ、光のアート展示や音楽、コンテンポラリーダンスなど、自然を生かした夜の宇宙芸術を展開する。

☎宇宙ヶ丘公園、千座の岩屋
☎種子島宇宙芸術祭実行委員会
Tel. 0997-22-9708



大平貴之「スーパープラネタリウム 星の洞窟」 Photo: Haruto Nakamoto

クリスマス・新春企画 情報求む!

12月号(11月25日発行予定)では「クリスマス・新春企画」を中心にご紹介します。下記までどしどし情報をお寄せください。
Tel. 03-5573-4093
Fax. 03-5573-4060
letter@jafra.or.jp
締め切り: 11月2日(月)

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げて
レポートします

横浜市

横浜みなとみらいホール
こどもフェスタ

「みなとみらい
遊音地」



上：こども・くらしっく ©藤本史昭
下：ハマのJACKのおんがくファミリーランド どうぶつ絵本コンサート『おおきなかぶ』ロシアの昔話 A・トルストイ 再話 内田莉莎子 訳 佐藤忠良 画 福音館書店 刊 ©藤本史昭

●横浜みなとみらいホール こどもフェスタ
「みなとみらい遊音地」
【会期】2026年8月6日～9日
【会場】横浜みなとみらいホール
【主催】横浜みなとみらいホール、NPO法人ハマのJACK(8日、9日)
【共催】ボッシュホール(都筑区民文化センター)(8日)
【協力】NPO法人横浜シテオペラ(8日)

●横浜みなとみらいホール
1998年開館のクラシック音楽専用ホール。大ホール(2,020席)には、4,632本のパイプをもつ大型パイプオルガン「ルーシー」を備えるほか、室内楽に適した440席の小ホール、リハーサル室、音楽練習室などを完備。

●ハマのJACK
若手演奏家の育成と地域に根差したクラシック音楽の普及を目指すNPO法人(2008年発足、11年NPO法人化)。代表の三又治彦(N響ヴァイオリニスト)をはじめ、メンバーはすべて演奏家。「遊音地」のほか、各種訪問演奏会、未来の演奏家を応援する金の卵プロジェクト(コンチェルト・ソリストオーディション、受賞者演奏会など)を展開。金の卵プロジェクトは、JACKの演奏家団体としての特徴が表れており、指揮者を置かず、演奏家同士が呼吸を合わせて若いソリストと共演することで、子どもたちに将来の糧となる舞台経験を提供している。21年度横浜文化賞文化・芸術奨励賞を受賞。

8月6日から9日まで、横浜みなとみらいホール全館で「こどもフェスタ みなとみらい遊音地」が開催された。この催しは2011年、同ホールとクラシック音楽の普及に取り組むNPO法人ハマのJACK(以下、JACK)がタッグを組む形でスタートしたものだ。6日に行われた演奏会「こども・くらしっく」(同ホール企画)と9日に行われたJACKによるプログラム取材した。

今回初めて取り組んだという「こども・くらしっく」は大ホールが会場となり、1717年製のストラディバリウスを持参したヴァイオリニストの松田理奈とピアニストの實川風が登場。二人が曲の形式やエピソード、演奏技法などの紹介を交えながら丁寧に進行したほか、楽器やホールの響きを身近に体感できるように来場者全員を3グループに分けて舞台上に招くなど、子どもたちへの思いが溢れた演奏会になっていた。

一方、NHK交響楽団ヴァイオリニストの三又治彦が代表を務めるJACKの企画には、同メンバーでもある現役のN響奏者などが全面協力。「金の卵プロジェクト」(オーディションで10歳以下、14歳以下、18歳以下の金の卵を発掘し、応援するホールとJACKの主要事業)の受賞者をお披露目する演奏会、0歳・1歳・2歳とクラスを分けて親子で気軽に音楽を体験する「おんがくベビーランド」、絵本を題材にした映像・朗読付きの「おんがくファミリーランド『どうぶつ絵本コンサート』」と、全力投球のプログラムが並んでいた。

このうち「ファミリーランド」では、楽器紹介も行う弦楽五重奏(十打楽器)に続き、同ホールとJACKが2014年に作曲家の木村裕に委嘱した絵本朗読音楽劇『おおきなかぶ』が上演された。巨大なカブを抜くべく集まる仲間を楽器に見立て、最後のネズミ役で1/8サイズのヴァイオリンを持った7歳の奏者が登場したときには会場中が笑顔に。2012年の『スーホの白い馬』を皮切りに、『にじいろのさかな』『100万回生きたねこ』『野毛山動物園の謝肉祭』『きつねのおきやくさま』と計10作品がJACKらにより委嘱されており、遊音地の大きな成果となっている。

同ホールの菊地健一チーフ・プロデューサー

は、「遊音地はホールの次世代育成事業に位置づけられています。JACKの取り組みを知り、ホールとしても応援したいと考えたことから、以前から実施していた夏休みのパイプオルガン体験などの子ども向け事業と合体させて遊音地を発足しました。『オルガン&ホール探検!』などなたでも楽しめる企画と、歌に興味があるならオペラ、ジャズが好きならジャズなどと選んで楽しむ“百貨店”的なプログラムがあり、試行錯誤しながら発展してきました」と話す。

JACKが設立されたのは2008年。三又が出演していた横浜市開港記念会館の演奏会シリーズの主催者が企画を継続できなくなったことから、活動を引き継ぐべく、同館時計塔の愛称「ジャック」を冠して団体を立ち上げた。当初は本格的な演奏会に子どもを無料招待していたが、次第に活動の幅を広げ、ノウハウを蓄積していった。

三又は、『ベビーランド』に来た親子にも、全員にホールでの演奏を体験してもらうようにしています。飽きさせないように、曲は5分以内、できれば3分以内がベスト。親にとっても新鮮な音楽体験となる選曲を心がけています。JACKは演奏家の団体であり、例えば指揮者なしで協奏曲を演奏する『金の卵』のための勉強などは、奏者にとっても糧となります」と話す。JACKの活動は、ホールや自治体との事業、年会費、助成金などを資金として活用しながら継続しているようだ。

横浜みなとみらいホールとJACKに共通するのは、子どもたちに響きのいいホールで良い音楽を生で味わってほしいというシンプルな願いだ。

「イヤホンやヘッドホンで音を聴くことが多い今だからこそ、どこからも音に包まれるような経験を、子どもの頃にどんどんしてほしいと思っています」(菊地)

「子ども時代に生演奏を聴いた経験が、40歳、50歳になった時の“何か”に繋がれば。音楽に興味がない子も含め、色々な子どもたちに足を運んでもらえるようにしたいですね」(三又)

音楽との出会いを届けるため、両者の試行錯誤は続く。(舞台芸術ライター・高橋彩子)